

令和6年（行ケ）第10014号 審決取消請求事件

原告 今井 直孝

被告 特許庁長官 濱野 幸一

正 本

副本直送

第1準備書面

令和6年7月12日

知的財産高等裁判所 第4部 御中

原告 今井 直孝

1 令和6年4月19日の弁論準備手続期日において確認された争点に関する主張

イ 取消事由1（発明該当性（特許法29条1項柱書）に関する判断の誤り）

欠陥が指摘され、明らかに誤りである《エネルギー保存の法則》を根拠として法を執行することは、法の乱用にあたり無効な法執行であると主張します。

ロ 取消事由2（実施可能要件（特許法36条4項1号）についての判断の誤り）

該発明の特許請求の範囲は、乙第3号証に示す通りです。

【請求項1】に記述される装置は、乙第4号証 1ページ目【図2】で説明される装置です。

【請求項2】に記述される装置は、乙第4号証 2ページ目【図3】で説明され

る装置です。

【請求項 3】に記述される装置は、乙第 9 号証 7 ページ目 図 5 で説明される装置です。（出願時は図による説明は、不要と判断し省略していました。）

【請求項 1・2】の装置が遠心力により推進力を得る原理は、それぞれ【図 2・3】により説明されています。

【請求項 1～3】の装置が発電する原理は、乙第 4 号証 1 ページ目【図 1】で説明されています。

依って、【請求項 1～3】の装置は、日本国内で義務教育を終了した者であれば容易に理解可能で、その発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者がその実施をすることができる程度に明確かつ十分に記載したものであると主張します。

2 エネルギー保存の法則は誤りであるとする追加の主張

大きく話が飛びますが『宇宙は膨張している。』とゆう話を聞かれたことがあると思います。なぜ『宇宙は膨張している。』のでしょうか。

風船に空気を吹き込めば、中の空気が増えた分、風船は膨張します。同様に宇宙においても中の物質・エネルギーが増えた分膨張しているのではないのでしょうか。

この宇宙の膨張を物理学はどのように説明しているのでしょうか。

およそ 150 億年前にビッグバンと呼ばれている大爆発によって宇宙は生まれました。そのビッグバンの際に今宇宙に存在している全ての物質・エネルギーが作られました。従って、宇宙の誕生から現在に至るまで物質・エネルギーの総

量は増えもせず減りもせず一定に保たれています。（エネルギー保存の法則）

ではなぜ宇宙は膨張しているのでしょうか。この問いに対して物理学は

『宇宙背景輻射が・・・。』

或は 『暗黒物質が・・・・・・。』などと意味不明な説明しかしていません。

およそ150億年前にビッグバンと呼ばれる爆発（膨張＝物質・エネルギーの増大）が始まりました。膨張により増えた物質等が、さらに膨張（増大）することから、その膨張は幾何級数的にその規模を拡大し、およそ150億年が経過した今現在も続いています。

このように説明するのが最も合理的ではないでしょうか。

エネルギーが保存されるとする考えでは、今の宇宙の規模及びその膨張を合理的に説明することはできません。

エネルギー保存の法則は誤りであると改めて主張します。

以上